

鳴子の新しいお土産が出来ました！



▲①温泉宿の浴衣柄を復刻した手ぬぐい
◀②アウトドアで使える漆器「Tabi椀」

今号の読者プレゼント!



鳴子温泉もりのたびの会では、鳴子の地域資源を活かしたお土産、温泉宿の浴衣柄を復刻した手ぬぐい、アウトドアで使える、あなたと旅する漆器「Tabi椀」を作りました。今春から販売予定です。

①は、宿ごとにデザインされたきた温泉宿の浴衣の柄が、地域で画一しつつあることを知り手ぬぐいとして復刻したものです。今後、反物を使って様々な商品へ展開できればと思っています！

②は、鳴子漆器をもっと気軽に使えたらという想いから生まれたアウトドアで使える漆器です。鳴子の伝統漆器のデザインを一部復刻し、鳴子の色（葉の花イエロー、濁沼ブルー等）を表現した器は、重ねて持ち運べます。

※当事業は観光庁の令和3年度「地域の観光資源の磨き上げを通じた域内連携促進に向けた実証事業」の一環として実施されました。



<https://moritabi.org/media/>

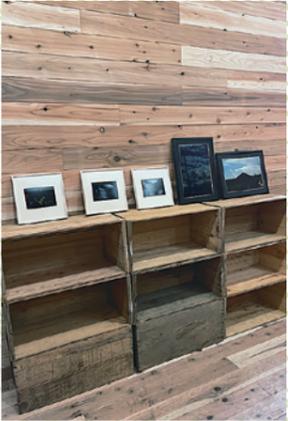
木質化 その③

のんびり散歩しながら訪れたい雑貨屋さん

MOKU-SITSU-KA Report Vol.3



「木質化」とは…天井、床、壁等の内装や外壁等に木材を用いること。



栗原市栗駒岩ヶ崎の六日町商店街にある、レトロ文具雑貨屋さんの栗駒コトリさん。内装にたくさんの木材が使用されており、奥にあるこちらのスペースは展示会などで使用しているそうです。「木」ならではの、人の手が加わらず自然そのものの良さが生かされ木の香りに包まれた素敵な空間です。りんご箱を利用した棚や、薪のストーブがこの空間にとっても溶け込んでいます。内装を木質化することで、視覚的なあたたかさや、ぬくもりを感じる事ができるだけでなく、工事前と比べても暖かさを実感しているとおっしゃっていた店主。店内にズラリと並ぶ雑貨はどれも個性的でほっこりするものばかりで、地元の方が集う語らいの場となっています。

栗駒コトリ

〒989-5301 宮城県栗原市栗駒岩ヶ崎六日町92
TEL 080-4479-9250 11:00～18:00 (変更あり)
水曜・木曜定休



M

この日伐採した丸太は、この後製材工程に移り、新しい鳴子こども園の園舎に使われる予定です。

その後、いよいよ伐採見学。自然豊かな環境で育っていることも初めは、実際に伐採作業を見るのはみんな初めて。ゆっくり木が傾いて、周りの木の枝を押し広げながら倒れると、その音の迫力に一瞬無言になった園児たち。でもすぐに賑やかな歓声に変わって、最後はまたみんなで丸太をお清めしました。

昨年11月、鳴子こども園に通う園児たちが伐採作業を見学しました。このイベントは、鳴子こども園の新しい園舎に、地元の森の木を使いたいという思いと、自分の山の木を使ってほしいという思いが一つになって開催されたもので、私たちしりんスタフもくりこまくんえんのみなさんと一緒にイベントのサポートを行いました！

イベントでは、まず園長先生が木の命をいただくということとわかりやすく説明。それからみんなで歌を歌い、これから倒す木に触れて、感謝の気持ちを送りました。

どこで育った木なのか、ちゃんとわかる。そんな園舎に通えるみんなはとっつてもラッキーです。

どこでもない今この季節を感じて暮らす



どこでもない今この季節を感じて暮らす

3月に発行予定のこの記事を書いている2022年2月14日は、秋にシベリアから宮城へ渡ってきたマガンたちが冬越しを終えてシベリアへ帰っていく北帰行の大移動日であった。数百羽程度のいくつもの群れがV字編隊を組み、栗駒山の麓から朝日と共に昇って来て、栗駒山頂の西側にある世界谷地上空を通過して秋田八郎湯へ渡って行く。

そして、3月からは春の雪山シーズン到来!! この冬は寒くて雪が多かったから、5月くらいまで山スキーや春の残雪登山を楽しめそうだと心が弾む。

栗駒山で暮らしていると様々な自然からの季節の変化の便りを受け取ることができる。この記事を書いているように先々のことを考えながら日々段取りよく暮らすことも大事だが、あまり先のことにとらわれすぎずに日々の暮らしで起こる「今ここ」の瞬間をしっかりと五感で感じ味わうことも忘れずに暮らしていきたい。

山の暮らしの備忘録。 第8回



栗駒山ででっかく遊ぼう!
山の遊び場・キャンプ場・ネイチャーガイド・ものづくり体験・焚き火クッキングなど、山の楽しみを体験いただけます。お子さん連れはもちろん、大人だけのご利用も歓迎いたします。詳しくは、自然学校のSNSへ!



Instagram



facebook

手のひらに太陽の家

tenohira-press | 通信 |

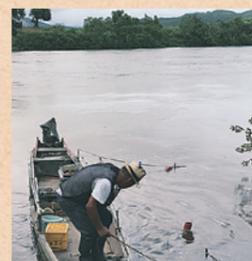
いたずらジイさんたちの鰻魚

古来より北上川船運の重要な中継地だった登米町では、客人をもてなすのは川魚でした。今につながる「鰻魚」は、主に農家の副収入として行われてきました。農家の小僧は誰に教えられるともなく、周りの大人を見つつ、失敗を重ねて覚えていったのです。

全国各地で道具は違いますが、北上川では、竹のヒゴでつくった筒を使うのが主流です。筒作りは稲が一段落した秋に竹の伐採から始まります。その竹を割って、削ってつくったひごを、手作りの織り機で丁寧に織り、立体に形成していきます。鰻は細い体に、驚異的な力を潜めており、目が荒いと隙間をこじ開けて逃げて行きます。飾り物ではない本気の筒は、機能美も兼ね備えています。しかし、かつての小僧たちは高齢化し、そんな筒を作ることが出来る人も少なくなってきました。

鰻魚が本格的に始まるのは田植えが終わった5月から10月頃までです。一番の餌はミミズ。大量に必要なので、漁をするジイさんたちは、それぞれ独自に開発した飼育方法や、秘密のミミズ畑を持っています。漁は、前日の明るい内に、目をつけていた場所に餌を入れた筒を仕掛け、夜中の3時ごろから筒をひきあげに行きます。入っていたら「してやったり!」収入のため、というよりは好きでしようがないのです。それを直接鰻屋に持ち込み、鰻屋のジイさんに手柄話をひと語りした後、稼いだ少しばかりの金で酒でも仕入れ、帰ってまた一杯やりのが楽しみなのです。

「いたずらジイさん」です。今では、日本鰻とともに「いたずらっ子」です。今では、日本鰻とともに「いたずらジイさん」も希少種になりました。そのいたずらジイさんたちに、鰻魚を見せてもらおうプログラムも計画中です!



寒い時期に伐った竹が、素材としては一番長持ちします。

facebook 手のひらに太陽の家プロジェクト 検索



くりこま高原自然学校
☎0228-46-2626
宮城県栗原市栗駒沼倉耕英中57-1
<http://kurikomans.com/>



株式会社 くりこまくんえん
☎0228-55-3261
宮城県栗原市鶯沢袋島巡44-7
<http://www.kurikomakunen.jp/>



NPO法人 しりん
☎0229-25-4668
宮城県大崎市鳴子温泉字玉ノ木70番地エコーの森内
<http://shinrin.org/>



手のひらに太陽の家
☎0220-23-9755
宮城県登米市登米町寺池辺山17番地1
<http://taiyounoie.org/>



サステナライフ 森の家
☎022-725-2775
宮城県仙台市泉区福岡字西森下39-13
<https://www.sustainablelife.co.jp/>

ウエスタ
宮城県加美郡加美町字北町三番44-1
<http://woodenergy.co.jp>



鳴子温泉もりのたびの会
宮城県大崎市鳴子温泉字沢74-21
<https://moritabi.org>